

世田谷区立区民センター連絡協議会 開催経過

平成30年2月

世田谷区立区民センター連絡協議会 開催経過

1 経過

第1回世田谷区立区民センター連絡協議会

日 時：平成29年7月12日（水）9時30分～11時45分

場 所：世田谷区議会大会議室

内 容：運営協議会活動の活性化

（運営協議会活動の現状と共通課題について意見交換）

出席者：各運協代表者15名、学識経験者3名、総合支所長3名、副支所長2名

オブザーバー：世田谷サービス公社

主な意見：資料1

第2回世田谷区立区民センター連絡協議会

日 時：平成29年10月19日（木）10時～11時30分

場 所：世田谷産業プラザ大・小会議室

内 容：運営協議会活動の活性化、施設管理のあり方と体制の強化

出席者：各運協代表者15名、学識経験者3名、各総合支所長5名

オブザーバー：世田谷サービス公社

主な意見：資料2

第3回世田谷区立区民センター連絡協議会

日 時：平成30年1月31日（水）10時～11時15分

場 所：世田谷文化生活情報センター生活工房セミナールームB

内 容：運営協議会活動の活性化、施設管理のあり方と体制の強化

出席者：各運協代表者13名、学識経験者3名、各総合支所長5名

オブザーバー：世田谷サービス公社

主な意見：資料3

2 連絡協議会構成メンバー

所属・役職	氏名
各区民センター運営協議会代表者	各センター1名程度
成城大学教授	境 新一（会長）
日本大学文理学部教授	後藤 範章
国土舘大学経営学部准教授	田中 史人
世田谷総合支所長	内田 政夫
北沢総合支所長	男鹿 芳則
玉川総合支所長	小堀 由祈子
砧総合支所長	寺林 敏彦
烏山総合支所長	進藤 達夫

3 世田谷区立区民センター連絡協議会（第1回から第3回）まとめ

（1）検討内容

- ・運営協議会活動の活性化等について
- ・施設管理のあり方と体制の強化について

（2）意見交換

<運営協議会からの意見>

特徴あるテーマ設定

- ・「地域の交流の場」「文化の発信地」として位置付けている。
- ・出会いの場として位置付け土日夜間も開催し誰でもどこかで参加できるよう工夫。

併設している施設間の協力

- ・児童館、図書館が併設なので、そのメリットを生かした活動をしている。

地域の人材の活用

- ・2つの町会にまたがり、商店会などいろいろな団体に協力依頼している。
- ・PTAで熱心な方に協力委員として残ってもらい活動に参加してもらう。

青少年など若い世代の参加

- ・イベントに参加してくれた子ども達が大きくなり、手伝いに来てくれる。
- ・PTAとの連携、高校生へのイベントのお手伝いの声かけをしている。
- ・運営協議会が学校や地域の活動のお手伝いをすることで繋がりを作る。

参加の場を増やす

- ・地域の人が参加する場、機会を増やすことで、区民センターに愛着を持ってもらう。

収益事業について

- ・収益事業のあり方が課題（民謡の集い、歌声喫茶、落語会など）。

運営に関すること

- ・事務局のサービス公社のフォローがありがたい。

<区の方考え方の説明>

運営協議会活動の活性化等について

- ・若い世代の運営協議会事業への参加や地元事業者や団体の参加と連携、運営協議会活動の活性化等について、今回の議論を踏まえ、今後、自主的に検討・実施するとともに、運営協議会間で情報共有を図っていく。
- ・区は、地域団体への協力依頼を行うなどの連携協力に取り組んでいく。

施設のあり方と体制の強化について

- ・区民センターの設置目的を踏まえ、地域の特性を活かした区民主体の自主的な活動を担ってきた運営協議会が指定管理者として、区民センター事業を運営することが適している
- ・施設管理については、ほとんどの区民センターが複合施設であり、区が施設全体を一体的に民間事業者へ業務委託することが合理的である。

< 学識経験者からの意見 >

- ・ 運営協議会が指定管理者として区民センター事業の企画・実施を担い、そして、施設の維持管理に関しては、ほとんどの区民センターが複合施設であるため、区から委託を受けた施設維持管理事業者が担うほうがいい。役割の切り分け、そしてそれを明確に打ち出すというのが、これまでの連絡協議会の議論の延長上で見えてきたのではないかと思う。
- ・ お互いにいいところ、強みを活かしながら施設を運営し、住民サービスを向上させていくのがいいかと思う。
- ・ 各運協の活動プログラムの一覧表を作成し区民にも見える形にする。各運協の魅力的な活動もわかり、情報交換が活発になり共有化も図れて、区民全体にも開かれた区民センターになる。
- ・ 各運協の活動プログラムの一覧表を作成するための調整は、区や受託事業者が担い、運営協議会を支援する必要がある。
- ・ 今後も、連絡協議会のような機会を継続していく。
- ・ タテヨコのつながり、安全安心の考え方も考慮し、世田谷ならではの区民センターの在り方を発展させていく。

(3) まとめ

運営協議会活動の活性化等について

- ・ 区民センター連絡協議会において、各区民センター運営協議会活動の現状や課題等について意見を出し合い、他の運営協議会の優れた点や工夫している点を共有する等、運営協議会同士の情報の共有化を図った。
- ・ 各運営協議会は、若い世代の運営協議会事業への参加や地元事業者や団体の参加と連携、運営協議会の活性化等について、今回の議論を踏まえ、今後、自主的に検討・実施していく。
- ・ また、各運営協議会の活動プログラムの一覧表を作成し情報共有を図るとともに、協議会活動が区民に見える形となるよう検討を進める。
- ・ さらに、今後も当該連絡協議会のような場を継続して設置していく。
- ・ 区は、地域団体への協力依頼を行う等の連携協力に取り組む。

施設管理のあり方と体制の強化について

- ・ 区民センターの設置目的を踏まえ、地域の特性を活かした区民主体の自主的な活動を担ってきた運営協議会が指定管理者として区民センターを運営することが適している。
- ・ 一方、施設管理については、ほとんどの区民センターが図書館、児童館等との複合施設であり、施設を効率的に管理するためには、区が施設全体を一体的に民間事業者に業務委託することが合理的である。

第1回世田谷区立区民センター連絡協議会 主な意見

- 1 区民センターごとの特徴あるテーマ設定（交流会で改めて自分のセンターの特徴を知った）
 - ・子供は地域で育てようとの思いを念頭に企画を実施。
 - ・運営委員が接着剤となって地域にいる専門の講師に依頼し中味の濃い講座を実施。
 - ・施設全体が協力してイベント実施。文化祭の展示内容を鉄道模型ジオラマなど工夫。
 - ・「地域の交流の場」「文化の発信地」として位置付け。
 - ・年3回の日帰りバス旅行。夏休みの親子対象、若い人向けの内容も工夫。
 - ・出会いの場として位置付け土日夜間も開催し「だれでもどこかで参加できる」工夫。
 - ・地域の神楽の支援、支所建替え時に引き取ったピアノ(スタンウェイ)で年6回コンサート。
 - ・前日に講師を招き講義を聴き、翌日見学する2日で1つのバス見学会。
 - ・PTAとの広報やイベント企画の協力により、斬新なPRや企画を実現。
 - ・体育館があるので利用者団体の活動が盛ん。シルバー人材センターの本部があることも特徴。
 - ・運営協議会を最初に立ち上げ、地域の意識が高い。
 - ・実技や話題性のある企画の充実、高齢者をターゲットにした魅力ある企画実施。

- 2 併設している施設間の連携
 - ・児童館、図書館が併設なので、そのメリットを生かした活動をしている。
 - ・児童館、ケアセンター、図書館、喫茶びあ(手をつなぐ親の会)など全部参加してもらうようにし、助け合って取り組んでいる。
 - ・児童館に来ている子どもがイベントにも遊びに来ているのも含め、青少年が参加できるよう連携。

- 3 地域の人材の活用
 - ・地域に密着した人たちが運営委員となっており、地元と区民センターとの接着剤となっている。地元のプロの講師へつなぐ役割も担っている。
 - ・2つの町会にまたがり、商店会などいろいろな団体に協力依頼。
 - ・PTAで熱心な方に協力委員として残ってもらい活動に参加してもらう。若い世代にお任せするようになってセンターの事業内容が変化(広報「桜丘ニュース」の発行、「夢プロジェクト」として毎月センターをディスプレイ、マスコット「さくみん」の作成、「こども食堂」実施予定)
 - ・指導者も高齢化が進むので対応が必要。

- 4 青少年など若い世代の参加
 - (1) 地元で育った子ども達の参加
 - ・開設当初来ていた子たちが大きくなり手伝いにきてくれる。

(2) 地元小中高生との連携

- ・深沢中学ダンス部、深沢高校茶道部、駒沢大学合唱部が活躍。
- ・ロビーはいつも学校の展示場とし講座などに参加しなくてもいつでも来られる場としている。
- ・砧南中学校のプラスバンド部がプロと連携して発表の場としている。
- ・高校の茶道部の発表。

(3) 子育て中親子の講座を実施

- ・子どもに見せたい映画、子育て中の親向けの講座（健康体操）の実施。

(4) PTA との連携 （再掲）

5 魅力あるテーマや曜日設定

- ・文化祭で、鉄道模型のジオラマで若い人の参加を促す。
- ・平日のイベントだけでは、若い人をとりこむのは難しい。
- ・土日夜間も開催し、「だれもがどこかで参加できる」ように考えている。
- ・子ども事業、乳幼児事業、高校説明講座（公私立10校が参加）など、若い人を対象にした講座を企画。
- ・「文化のまち」別館桜丘ホールがあり、地域では呼べないクラスの人を呼んで2ヶ月に1回は音楽会。
- ・参加者が減り、文化祭の展示が同じになる傾向あり。
- ・各事業のネタ探しに苦労「マンネリ化」を懸念。
- ・このような場での交流で意見交換できたら良い。

6 収益の確保

- ・収益事業のあり方が課題（民謡の集い、歌声喫茶、ファミリーアター、落語会など）
- ・受講費の金額を考えることもあるので、指針があると良い。

7 運営に関すること

- ・文化祭の参加団体が減り、展示内容が同じになってしまっていること。
- ・利用団体と地域団体の2本柱が両輪として機能できるようつなぎ役を行政に期待。
- ・事務局のサービス公社のフォローがありがたい。
- ・全員参加で会議、予算も和気あいあいで検討。
- ・けやきネットにより、地域住民が身近な施設が使いにくくなり、愛着が薄れてきた。

8 設備に関すること

- ・住宅地の真ん中にあり、ホールがないので大きな音は出せない。
- ・キッチンがないのでお料理教室ができない。
- ・設備が新しくなったので事業の幅が広がった。

1. 区民センターごとの特徴

子どもを地域で育てよう		若世代の活躍	地域とのつなぎ役
子供は地域で育てようとの思いで、企画	夏休みの親子対象、若い人向けの内容も工夫	PTA との広報やイベント企画の協力により、斬新なPRや企画を実現	運営委員が接着剤となり、地域の専門家に依頼して中味の濃い講座
交流拠点		設備を活用	
「地域の交流の場」「文化の発信地」として位置付け	出会いの場として位置付け、土日夜間も開催	支所建替え時に引き取ったピアノで年6回コンサート	体育館があり利用者団体の活動が盛ん
施設全体が協力してイベント実施	運営協議会を最初に立ち上げ、委員に自負がある。	企画の工夫	
		実技や話題性のある企画の充実、高齢者向け魅力ある企画実施	前日に講義、翌日見学する2日で1つのバス見学会

2. 併設している施設間の連携

児童館 / 図書館 / ケアセンター / 喫茶 / 体育館

児童館、図書館が併設、そのメリットを生かした活動	児童館、ケアセンター、図書館、喫茶など全部参加し連携	児童館に来ている子どもがイベントにも来る	(再掲) 体育館があり利用者団体の活動が盛ん
--------------------------	----------------------------	----------------------	------------------------

3. 地域の人材の活用

運営委員は地域とのつなぎ役

地域が運営委員となり、区民センターへ地域の専門家をつなぐ役割	PTA・若い世代 PTA で熱心な方に協力委員として残ってもらう	若い世代に任せるようになり、センターの事業内容が変化	商店会 2町会にまたがり、商店会などいろいろな団体に協力依頼
--------------------------------	--	----------------------------	--

課題：指導者の高齢化

指導者も高齢化が進むので対応が必要

5. 魅力あるテーマや曜日設定

内容の工夫	曜日の工夫
鉄道模型のジオラマで若い人の参加を促す	土日夜間も開催し、「だれもがどこかで参加できる」ように
対象の工夫	課題：新しい内容、若い人の参加が難しい
子ども事業、乳幼児事業、高校説明講座など、若い人を対象の講座	各事業のネタ探しに苦勞「マンネリ化」を懸念
他施設との情報交換	参加団体が減り、文化祭の展示内容が同じになる傾向あり
このような場での交流で意見交換できたらい	平日のイベントが多く、若い人をとりこむのは難しい

4. 青少年など若い世代の参加

地元で育った子ども達の参加	地元小中高大学生との連携	PTA との連携
開設当初来ていた子たちが大きくなり手伝いにきてくれる	中学ダンス部、高校茶道部、大学合唱部が活躍	(再掲) PTA で熱心な方に協力委員として残ってもらう
子育て中の親子の講座	高校の茶道部の発表	ロビーは学校の展示場、講座に参加しなくてもいつでも来られる
子どもに見せたい映画、子育て中の親向けの講座	中学校プラスバンド部がプロと連携して発表の場	

7. 運営に関すること

課題	全員参加で会議、和気あいあいで検討	事務局のサービス会社のフォローがありがたい
	文化祭の参加団体が減り、展示内容が同じになってしまふ	利用団体と地域団体の2本柱が両輪機能するつなぎ役を行政に期待
		けやきネットにより、地域住民が身近な施設を使いにくくなり愛着が薄れてきた

6. 収益の確保

収益事業のあり方が課題	受講費の金額を考えると良い
-------------	---------------

8. 設備に関すること

住宅地の真ん中にあり、ホールがないので大きな音は出せない	キッチンがないのでお料理教室等ができない	設備が新しくなったので事業の幅が広がった
------------------------------	----------------------	----------------------

第2回世田谷区立区民センター連絡協議会 主な意見

1 地域の人材の活用

(1) 高齢化の課題

・97歳の方に日本舞踊を踊ってもらっているが、高齢化に伴い活動者が減ってきている。若い人を育てる案をお聞きしたい。

(2) 若い世代(中学生)を巻き込む工夫

・中学校のプラスバンドがプロと一緒に演奏することで、本気で取り組む人が出てきた。企画委員会は高齢化しているが、今年19周年、20周年まではがんばろうと言っている。若者が参加できる場を作り、手伝ってもらい、そのあと若い人に引き継ごうと、3年計画でやっている。

(3) 小中学校/PTAとのネットワーク

・行事PRポスターを小中学校にお願いしている。これがきっかけでPTAの人も協力してもらえるようになった。

・PTAも任期期間は児童館に手伝いにきてもらえる。そこで知り合った人に、卒業後も個人的に協力をお願いする。運営協議会の切り口だけではいい人見つからない、他のお手伝いもしながらつながっている。

(4) 高校生へは「手伝い」の声かけ

・児童館にベビーカーできていた子供も高校生になり、バイトもできるようになった。神社のお祭りや商店街のイベントで「手伝いにこない?」「アルバイトできないか」と声かけして、つながりをつくっている。子ども時代に世話になったおじさんおばさんが声かけしたら断れない。

(5) 他との連携

・区民センター、児童館、図書館の共催事業もやっていて、児童館の子どもたちも声をかけている。芦花高校の生徒が児童館の事業にボランティアで来て、顔見知りになっている。多世代の人に交じって、遊んだり手伝ったりする経験がないので、そこをしないと育っていかないと思う。

・区民センターだけで考えるのではなく、こちらから学校や地域の活動のお手伝いをするこつてつながりをつくることも必要である。

(6) 参加の場を増やす

・地域の人が参加する場、機会を1つ増やすことで、そこに来た人が区民センターに愛着を持ってくれる人を増やし、いずれ運営側にまわってくれる。高齢化は心配していない。

2 文化祭の工夫

(1) 文化祭(イベント)運営の課題

- ・文化祭が同じ内容なので変化が欲しい

(2) 地域の障害者(施設)との交流

- ・文化祭で「障害者の展示コーナー」実施。障害者の絵が好評だった。健常者と障害者が一体となったものができ、これまでの活動から一步踏み出すことが出来た。
- ・地域の福祉施設と交流しながら進めている。個人、施設の参加もあり、交流の場になっている。
- ・障害者やその親御さんたちも含め、自分たちの活動の場がここにあると理解できれば、それを支える側にもまわる。「1.地域の人材の活用」とも関連する

(3) 新たな参加者の開拓

- ・文化祭時に、大広間があいてしまっている(参加者が減っている)。いきいき講座(あんしんすこやかセンターとの連携)の人にやってもらおうかとか検討中。

3 施設の運営について

(1) 施設運営の課題

- ・暫定的に事業委託で2年間引き受けているが、一番気になっているのは管理の問題である。今後、運営協議会の役割から管理が外れた場合、責任がないのはよいが、問題があった時にどう対処したら良いのか。
- ・今日出た意見をもとに、運営協議会で取り組んで来たものは引き続きできるようにというのが基本的な考え。運営協議会の自主的な活動を支援する体制をつくりたい。
- ・運営協議会は地域の民意を反映しており、地域の課題解決に取り組んでいる。サービス公社側は、この4月から、運営協議会を支える事務局を担う役割を明確にするためスタッフを「事務局長」とした。このしくみは、日本にはまだない。今の仕組みの中に当てはめようとしてもできない。どう位置づけるか検討が必要。

(2) 今後について(学識からのまとめ)

- ・区民センターは、地域のリーダーと公社、区が、現状や課題を開示して刺激を受け共有している場であること認識した。区は制度、地域のリーダーは運営をうまくやっていくことに関心があるので、交通整理が必要である。(地域住民と施設の)「接着剤」もキーワードであり、顔をつきあわせて話し合うことも接着剤になっている。
- ・キーワードは「つながる」。1)地域の中でのつながり、2)地域間のつながりがある。運営協議会は、地域の中で地域のことを解決していこうとしている。世界中に繋がれる時代だからこそ、地域のつながりを大事にしながら、地域間=各区民センターのつながりも大事にしていく

と良い。

- ・地域に（人を）引きよせ、巻き込み、多世代交流が必要で、みなさんのやっていることはとても大事。（これからの地域課題を解決するには）今までのモデルはつかえない。前例がないから新しいものを提案していかないといけない。トライアンドエラーを繰り返すだろう。つなげることをどうやっていくか、地域課題を解決するような活用ができれば良い。

4 区民センターの施設管理のあり方と体制について（基本的な考え方：事務局より）

- ・世田谷区の各区民センターでは、運営協議会が主体となって様々な事業を主催者として実施していただけており、地域の特性を活かした区民主体の活動として、それぞれ独自かつ様々に展開されてきた。
- ・世田谷区としては、区民センターが、地域住民のためのコミュニティ施設として有効に利用されることや、地域による自主的な運営方式が促進されるため、運営協議会によって各区民センターの自主運営を進めていただくことについて、今後も変わらないものと考えている。
- ・引き続き運営協議会のみなさまに、文化活動、学習活動、コミュニティの形成を促進するための講座及び、催し物を実施する等、区民センター事業を担っていただくことをお願いしたいと考えている。
- ・一方、施設の維持管理については、従前どおり運営協議会ではなく、施設管理事業者が行い、運営協議会が実施する生涯学習事業の補助や運営協議会事務局についても、施設管理事業者が行うように考えている。
- ・これによって、運営協議会が効率的に業務を遂行できるよう支援できる体制とするとともに、さらに本連絡協議会が出された「運営協議会活動の活性化」についての意見を踏まえ、より自主性を尊重する体制についても検討していきたい。

第2回世田谷区立区民センター連絡協議会 主な意見

1. 地域の人材の活用

ヨコの広がり

課題：高齢化

区民センターで活動する人が、高齢化に伴い、減ってくるのではないかと心配している。

参加の場を増やす

地域の人に参加する場、機会を増やすことで、区民センターに愛着を持ってくれる人を増やす。利用している人がいずれ運営側にまわってくれる。高齢化は心配していない。

障害者とのネットワーク

障害者も含めた多様な人の活動の場となる。さまざまな人にとって、自分たちの活動の場がここにあると理解できれば、支える側にもなる。

他との連携

区民センター、児童館、図書館の共催事業をやっている。児童館に来ている子どもたちに声をかけて、参加してもらっている。

区民センターだけで考えるのではなく、こちらから学校や地域の活動のお手伝いをする事でつながりをつくる必要がある。

小中学校 / PTA とのネットワーク

行事ポスターを小中学校にお願いしている。これがきっかけで PTA の協力も得られるようになった。

PTA も任期期間は手伝いに来てもらえる。そこで知りあった人に、卒業後も個人的に協力をお願いする。

高校生へは「手伝い」の声かけ

ベビーカーで来ていた子どもも高校生になった。「アルバイトできないか」と声かけて、つながりをつくっている。

高校生が児童館の事業にボランティアで来て、顔見知りになっている。

若い世代を巻き込む工夫

中学校のブラスバンドとプロと一緒に演奏し、本気で取り組む子が出てきた。

若者が参加できる場をつくり、手伝ってもらい、3年計画で引き継ぎできればと考えている。

タテの広がり

2. 文化祭の工夫

課題

文化祭の参加者（出展、活動者）が減っている。

障害者との交流

障害者の展示コーナーを作ったところ、障害者の絵が非常に好評だった。これまでの活動から一歩進んだと感じた。

福祉施設と協力しており、施設や、個人にも参加してもらっている。

3. 施設の運営について

管理の問題

今後の管理運営について、どのような対応をしたら良いのか。

これまで運営協議会として取り組んで来たものは引き続き、活動できるようにすることが基本的な考え方である。

施設の管理と地域の課題に取り組んでいる

区民センターを中心として、地域のまちづくりを担う存在になっている。

施設管理は、専門の組織が担ってきた。

「運営」と言った時に、地域課題の解決と、施設の管理を整理して考える必要がある。

区民センターの運営

地域課題の解決

施設管理

第3回世田谷区立区民センター連絡協議会 主な意見

【区の方針の説明】

1 運営協議会活動の活性化等について

- ・この区民センター連絡協議会では、各区民センター運営協議会の活動の現状や課題等について意見を出し合い、運営協議会同士の情報の共有化を図った。
- ・また、若い世代の運営協議会事業への参加や地元事業者や団体の参加と連携、運営協議会活動の活性化等について、今回の議論を踏まえ、今後、自主的に検討・実施するとともに、運営協議会間で情報共有を図っていく。
- ・区は、地域団体への協力依頼を行うなどの連携協力に取り組んでいく。

2 施設管理のあり方と体制の強化について

- ・事務局において、「共同事業体を指定管理者とする」ケースや「運営協議会を指定管理者とし運営協議会から施設の維持管理を再委託する」ケースについて検討したが、それぞれ課題があり、現実的ではないという結果になった。
- ・区民センターの設置目的等を踏まえ、地域の特性を活かした区民主体の自主的な活動を担ってきた運営協議会が、指定管理者として、区民センター事業を運営することが適している。
- ・一方、施設管理については、ほとんどの区民センターが複合施設であり、区が施設全体を一体的に民間事業者へ業務委託することが合理的である。
- ・今後、運営協議会が、指定管理者として、区民センター事業を運営していく中で、何らかの損害が発生した時の対応等については、今後、区と運営協議会で調整していく。

【学識経験者からの意見】

- ・この間、連絡協議会で、2回皆様からご意見を伺ってきて、運協と施設維持管理事業者が共同事業体として一緒に2つの役割を担うという共同事業体構想には、少し無理があるのではないかと受け止めた。
- ・運協が、指定管理者として区民センター事業の企画・実施を担い、そして、施設の維持管理に関しては、ほとんどの区民センターが複合施設であり区が一体的に事業者へ委託するのが合理的であるため、区から委託を受けた施設維持管理事業者が担うほうがいい。役割の切り分け、そしてそれを明確に打ち出すというのが、これまでの連絡協議会の議論の延長上で見えてきたのではないと思う。お互いにいいところ、強みを活かしながら施設を運営し、住民サービスを向上させていくのがいいと思う。
- ・区民センター事業の活性化について、第1回で区民センターが人を育て、人が育つ場、地区のつなぎ役、交流の拠点であることを再認識し、第2回では、運営協議会がヨコのつながり、タテのつながりを担い、区民センターがその中核となることが確認できた。
- ・地域間のタテヨコのつながりをどう実現するかについては、各運協の活動プログラムの一覧表を

- 作成し区民にも見える形にする。それにより、各運協の魅力的な活動がわかる。この活動プログラムの一覧表を作成する繋ぎ役は、区や委託事業者が担い、運営協議会を支援する必要がある。
- ・各運営協議会の活動の情報プラットフォーム（情報発信の共通の基地）を構築していくことを区民センターが主導的に果たし、そのことで情報交換が活発になり、共有化も図れて、区民全体に開かれた区民センターになるという道筋が考えられる。
 - ・タテヨコのつながり、安全安心の考え方も考慮し、世田谷ならではの区民センターの在り方を発展させていってほしい。
 - ・連絡協議会のような場は、お互いをつなげるいい機会であり、区民センター間のつながりを深めていくのが重要である。今後も、連絡協議会のような機会を継続していくべきだ。
 - ・この連絡協議会で回を重ねることにより、各区民センターの運営について、特徴や課題が明らかになるとともに、世田谷独自のシステムがうまく機能していると感じた。
 - ・このような場に、若い人を積極的に引き込んでいくことも必要である。それによってさらに一層発展させてもらいたい。

【意見】

- ・各区民センターの事業一覧表は良い。区、事業者は大変かもしれないが、我々も協力する。表には、予算や経費も入れて、費用対効果の視点が大事である。
- ・他の区民センターの良いところは自分のところに取り入れる、知恵を使うということ。この会議があったおかげである。

【まとめ】

- ・議題である運営協議会活動の活性化等について、施設管理のあり方と体制の強化については、区の方考え方を連絡協議会として確認する。
- ・連絡協議会でさまざまな課題について意見をいただいた。運営協議会で解決できないものについては、区に相談していただきたい。
- ・情報共有が非常に重要なので、各運協の活動プログラムの一覧表の作成については、今後、区として検討する。
- ・今後も、連絡協議会のような機会を継続していく。